

校長先生を訪ねて

大阪学芸中等教育学校

何ごとも、あきらめない、
努力が実を結ぶ

大好きな歴史とバスケットボール、私にとってこの2つを両立させられる仕事が出来ました。バスケットボールは中学からがんばっていたものの、大きな大会で勝利できたのは大学3年のとき。しかし、この「努力をすれば夢は叶う」という貴重な経験を、次代を担う子どもたちにも伝えたいというのが、教鞭を執るきっかけになりました。

とはいえ、当時、社会科の教員採用試験に合格するのは難しく、講師を続けながら何度も挫折しそうになりましたが、まさに苦節10年。縁あって本学園の正式教員になれたのです。



1999年中学校の開校4年目に本校に異動。生徒との思い出は多すぎてとても一言では言い尽くせませんが……。最近、印象深かったのが、私が顧問をしていた、女子バスケットボール部員のことです。彼女は入学後すぐに入部しましたが、どちらかといえば不器用な選手。努力していたのにもかかわらず、試合でなかなか結果を出せませんでした。しかし、昨年の最終試合では大活躍し、勝利に貢献してくれました。その根底にあるのは、とにかく誰よりも真面目に、休まず練習に励んだことだと思います。たゆまぬ努力、がいつか必ず実を結ぶのは昔も今も同じ。下積みからコツコツとがんばり抜いた生徒の

岡川啓司校長先生

生徒たちは、20年後から来た留学生、大切に育てて未来へお返しします

Profile

1959年、大阪府出身。立命館大学文学部卒業。1991年に大阪学芸高等学校の前身、成器高等学校の社会科教員として着任し、1999年に大阪学芸中学校へ。2010年に副校長、2011年に校長に就任。中学校から大学までバスケットボール部に所属し、本校着任後はバスケットボール部の顧問に。現在は、体育系クラブの試合や文系クラブのコンサート、発表会などへ積極的に足を運び、生徒を応援している。



「学芸ESD」を取り入れています。「ESD」とは持続可能な社会の担い手を育む教育のことで、総合的な学習の時間を利用してコミュニケーション力や表現力、論理的思考力を身につけるのです。

たとえば、2年生が1年生に職業について紹介する「職業紹介発表会」や、3年生が2年生に向けて行う「オーストラリア海外研修の報告会」など、調べる力、まとめる力、人前で話す力を伸ばしながら、学年を越えた縦のつながりも意識させています。この授業は高1・高2生にも拡大しています。こうして身につけた力は大学受験や大学での学びでも生かされると思いますが、我々が目指すのはもっと先の20年後です。私は新入生のことを、20年後の未来から来た留学生と

だと思っています。彼らの20年後は32歳。就職して仕事の面白さがわかってきた頃か、あるいは転職を考えている頃かもしれない。結婚し、親になっっている生徒もいるでしょう。ちょうど社会人として最初の転換期を迎えるのがこの年齢です。私自身も本学園に着任したのがその頃でした。

学校の成績だけで大学を決め、将来を考えるなら別ですが、大切なのはその先の人生。中高時代から結果を急がず、長いスパンで将来を見えていかないと、本校の特徴は出ないと思うのです。そういう意味でも我々は「20年後から来た留学生」に對してあせらず、学力を伸ばすだけでなく、人間形成も基礎からしっかりとしなければなりません。20年後に彼らがどういう社会人になって、どういう仕事をして国際社会に貢献しているか、これを見過して取り組むのが「学芸ESD」なのです。

生徒に媚びず 常に普段着の 校長でいたい

異学年交流は、社会で円滑な人間関係を築くための近道で



す。学校行事やクラブ活動はもちろんです。本校では学習も生徒自身で教え合うなど、縦割りのコミュニケーションの機会を多く与えるようにしています。そのため、2010年度より数検の2級以上を取得した4、5年生が、1、2年生の指導にあたる「検定スーパーバイザー制度」を設置。最初はうまく教えられなかった上級生も、これを機にもう一度勉強し、サポートしてきた後輩が合格すれば一緒に喜んで喜びます。

私は本校で生徒と泣き、笑い、苦労をともにしてきました。あまりにも近い距離にいたので、今年から突然校長としてみんなの前に立つことになりました。戸惑う生徒も多かったでしょう。ですから、就任後初となった4月の始業式の挨拶では、まず無言で30秒間、ざわついていた生徒たちの

活躍を見るのは本当にうれしいもので、彼女が卒業したら、在校生に伝えたいエピソードの一つになります。

学年の壁を越えた活動で 表現力や会話を伸ばす

本校は先生と生徒の距離が非常に近いので生徒は安心感に包まれています。先生は、社会に出たら守ってくれる先生はいません。学校教育で困難な場面に遭遇しても乗り越える力をつけることが大切です。

そこで、たくましく生きる力を持ち、国際社会でリーダーとして活躍できる人材を育てるため、2010年度から1年次から3年次の授業に

顔を見つめ、静かになったところで「しっかりと人の話を聞く姿勢を持ちなさい」とだけ言いました。まわりくどい言い回しはせず、思いをダイレクトに伝えるというのが私のスタイル。校長になっても、今までどおり、大きな心で生徒を見守る。普段着の校長、でありたいのです。

受験生へのメッセージ

大阪で唯一の男女共学・中高完全一貫教育の学校です。教育現場では、生徒一人ひとりの20年後を見すえ、国際社会において活躍するために、たくましく生きる力を身につけ、責任ある行動がとれる人物を育てています。まずは、入試説明会や学校見学会を見に来てください。そうすれば、親しみやすい温かな学校であることが伝わることでしょう。本校にあるのは厳しいルールではなく、親身になって教えてくれる先生や生き生きと学ぶ先輩たちがいっぱいいることを実感してください。

こんな 学校です

1903年の甲種商業学校創立以来、100余年の伝統を持つ同校。前身となる大阪学芸中学校が1996年に設立。2003年に廃止となり、現在の大阪学芸中等教育学校となる。現在、大阪で唯一の男女共学・中高完全一貫教育の学校として、「グローバル化する社会で活躍するために、たくましく生きる力を身につけ、責任ある行動がとれる人材を育成する」ことを教育目標としている。